

研究課題： Blalock-Taussig Shunt 術後周術期管理における心エコー図での下行大動脈 Retrograde flow area と Forward flow area 比の有用性（後ろ向き研究）

1. 研究の目的

先天性心疾患において Blalock-Taussig Shunt 術は代表的な姑息手術ですが、近年の報告でも依然として死亡率が高い術式です。特に術後の急性期は肺血流が過剰状態または過小状態かどうか評価する必要があります。そこで Blalock-Taussig Shunt 術を施行した患者様の周術期において、心臓超音波・ドップラー検査での下行大動脈 Retrograde flow area と Forward flow area の比率が周術期の管理方針決定に有用となりうるか検討することが本研究の目的です。

2. 研究の方法

当院で 2018 年 1 月から 2023 年 12 月までの間に Blalock-Taussig シャント術を施行した患者様が対象となります。術後周術期に、心臓超音波・ドップラー検査を行い、下行大動脈での Retrograde flow area と Forward flow area の比率を測定し、周術期の管理方針決定に有用となりうるか検討します。拡張期血圧、経皮酸素飽和度、血中酸素飽和度、血中乳酸値、尿量との間に相関関係があるか、また下行大動脈での Retrograde flow area と Forward flow area の比率が時間経過と共に変化するかを評価します。診療録から後方視的に、疾患名、性別、手術時の月齢/体重、シャントサイズ、シャントの吻合部位、人工心肺症例の有無、シャント以外の肺血流源の有無などの情報を調べまとめます。

3. 研究期間

2024 年 1 月（倫理委員会で承認を得られた日）から 2025 年 1 月までの 1 年間です。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

カルテの記載や画像から、検査に関する事柄を調べまとめます。心臓超音波検査画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用され

ることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：循環器科 医員 橘高 恵美

研究分担者：循環器科 科長兼部 星野 健司

研究分担者：循環器科 副部長 河内 貞貴

研究分担者：循環器科 医長 百木 恒太

研究分担者：循環器科 医長 真船 亮

研究分担者：循環器科 医員 大森 紹玄

研究分担者：循環器科 医員 築野 一馬

研究機関：東京慈恵会医科大学

研究分担者：循環器科 助教 古河 賢太郎

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年3月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）